

since 1920

運輸新聞

E-mail inquiry@unyu.co.jp URL http://www.unyu.co.jp

発行所・運輸新聞株式会社
東京都荒川区西日暮里3-6-10
佐々木ビル3F 〒116-0013
TEL03-5685-0035
関西支社 大阪市中央区瓦町1-3-2
〒541-0048 TEL06-6209-3261
発行人・野口香織
火・金発行(祝日を除く)
3,600円/月(送料・税込)

2021年
3月9日(火)
第17377号

特集 日本通運
2~3面 医薬品センター

後続無人のトラック隊列走行実現

商業化は25年度以降

レベル4
とセット



後続車は車間約5mを維持し、蛇行運転でも隊列を維持する。2月22日、福山主管支店で行われた実験風景。

経済産業省と国土交通省は、トラックの後続無人隊列走行を2月22日に新東名高速(浜松SA~遠州森町PA)で初めて実現した。今後、後続有人での商業化を21年度中に、後続無人は割り込みなどに課題が残るとして、来年度新たなプロジェクトを立ち上げ、自動運転レベル4とのセットで検討し、25年度以降の商業化を目指す。

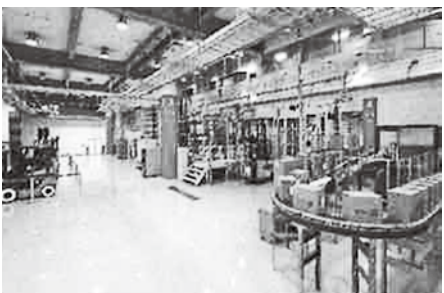
今回の大型トラックが時速80キロ、車間距離約9メートルの車群を組んで走行。後続車の助手席には保安要員が安全確保のため乗車した。

今回、3台の大型トラックが時速80キロ、車間距離約9メートルの車群を組んで走行。後続車の助手席には保安要員が安全確保のため乗車した。

後続無人隊列走行の仕組みは、①先頭車の走行軌跡を自動追従。②ミドリレーダーからのレーザ光で、プラスマイナス50センチ以内で修正。③車間距離を常に5〜10センチ以内に維持する。④自然環境変化による急激な減速や、前方車両の急ブレーキや急ハンドルを踏んだ場合、変更できないよう自動的に修正。⑤自然環境変化による急激な減速や、前方車両の急ブレーキや急ハンドルを踏んだ場合、変更できないよう自動的に修正。

20年ぶりリニューアル

トヨタ L&F カスタマーズセンター東京



1階 ロボティクスによるフルオートメーション



2階 人と機械の調和によるセミオートメーション

豊田自動織機トヨタL&Fカンパニーは、千葉県市川市の物流センターリニューアルし、4月6日(火)からオープンする。2001年に開設された同センターは、トヨタL&Fが培ってきた物流ノウハウに豊富な商品ラッシュを組み合わせ、顧客に実際の物流ソリューションを体感してもらうことができた。昨今の慢性的な人手不足に加え、eコマースの進展、さら

た同センターは、トヨタL&Fが培ってきた物流ノウハウに豊富な商品ラッシュを組み合わせ、顧客に実際の物流ソリューションを体感してもらうことができた。

トヨタL&Fが培ってきた物流ノウハウに豊富な商品ラッシュを組み合わせ、顧客に実際の物流ソリューションを体感してもらうことができた。昨今の慢性的な人手不足に加え、eコマースの進展、さら

トヨタL&Fが培ってきた物流ノウハウに豊富な商品ラッシュを組み合わせ、顧客に実際の物流ソリューションを体感してもらうことができた。



鴻池 忠彦 社長

鴻池運輸 技術研究所を開設

オープンインベーション加速

鴻池運輸は3日、「鴻池技術研究所インベーションセンター(技研IC)」を開設、説明・見学会を開催した。

鴻池運輸は3日、「鴻池技術研究所インベーションセンター(技研IC)」を開設、説明・見学会を開催した。所在地は、東京都品川区八潮の東京レールゲートWEST6階で、敷地面積205坪。同センターの役割は、①多岐にわたる作業現場を再現し、実効性確認後に現場へ導入②社員、顧客、ベンダーそれぞれが新技術に触れる機会を増

鴻池忠彦社長は「わが社の強みは現場力にある。人手不足に象徴される物流課題を解決するには、長年培ったノウハウと最先端の自動化技術を



自動フォークリフト、ピッキングロボット、ピッキングロボットアーム、ピッキングロボットアーム、ピッキングロボットアーム



ピッキングロボットアーム

に稼働する様子を見ることができると。また、顧客の物流課題やニーズの解決にこれまでに貢献するべく、「インベーション」を紹介する。国土交通省から発表されたダブル連結トラックの对象路線の拡充を受けて行われる。2017年10月に日本で初めて全長25メートルダブル連結トラック

に稼働する様子を見ることができると。また、顧客の物流課題やニーズの解決にこれまでに貢献するべく、「インベーション」を紹介する。

国土交通省から発表されたダブル連結トラックの对象路線の拡充を受けて行われる。2017年10月に日本で初めて全長25メートルダブル連結トラック

国土交通省から発表されたダブル連結トラックの对象路線の拡充を受けて行われる。2017年10月に日本で初めて全長25メートルダブル連結トラック

国土交通省から発表されたダブル連結トラックの对象路線の拡充を受けて行われる。2017年10月に日本で初めて全長25メートルダブル連結トラック

国土交通省から発表されたダブル連結トラックの对象路線の拡充を受けて行われる。2017年10月に日本で初めて全長25メートルダブル連結トラック

国土交通省から発表されたダブル連結トラックの对象路線の拡充を受けて行われる。2017年10月に日本で初めて全長25メートルダブル連結トラック

福山 通運 ダブル連結3路線に

福山通運は6日、全長25メートルダブル連結トラックを福山主管支店(広島県福山市)と福岡流通センター(福岡県福岡市)間で運行開始したと発表した。

福山主管支店から国道2号線を走行して山陽自動車道福山西インターチェンジ(IC)から高速道路に乗り、九州自動車道福岡ICで降りて国道201号線を走って福岡流通センターまで運行する。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

特積3カ月連続増 一般15カ月連続減

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

後続無人は、割り込みや停止した後の対応、後続車の自律走行などの課題があるため、自動運転レベル4(特定条件下での完全自動運転)を検討する新たなプロジェクトを立ち上げ、この中に無人隊列走行を組み込み、運行管理システムの確立、物流事業者による制約(コスト)の活用により21年度中に実現すること

国土交通省、車間開発を手がけた先進モビリティが説明会を開催。商業化の時期について、後続有人(レベル2高度運転支援)はACC(定速走行・車間距離制御装置)の活用により21年度中に実現することができ、ACC付のトラックを購入した物流事業者が検討することになるとした。

国土交通省、車間開発を手がけた先進モビリティが説明会を開催。商業化の時期について、後続有人(レベル2高度運転支援)はACC(定速走行・車間距離制御装置)の活用により21年度中に実現することができ、ACC付のトラックを購入した物流事業者が検討することになるとした。

国土交通省、車間開発を手がけた先進モビリティが説明会を開催。商業化の時期について、後続有人(レベル2高度運転支援)はACC(定速走行・車間距離制御装置)の活用により21年度中に実現することができ、ACC付のトラックを購入した物流事業者が検討することになるとした。

国土交通省、車間開発を手がけた先進モビリティが説明会を開催。商業化の時期について、後続有人(レベル2高度運転支援)はACC(定速走行・車間距離制御装置)の活用により21年度中に実現することができ、ACC付のトラックを購入した物流事業者が検討することになるとした。

国土交通省、車間開発を手がけた先進モビリティが説明会を開催。商業化の時期について、後続有人(レベル2高度運転支援)はACC(定速走行・車間距離制御装置)の活用により21年度中に実現することができ、ACC付のトラックを購入した物流事業者が検討することになるとした。

2月末現在)在籍している。幹線輸送の効率化、ドライバーの労働環境改善とともに、CO₂排出量の削減による地球環境負荷の低減に貢献することから、今後さらに台数を増やしていく」として

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

特積みの平均稼働日数は23.2日(同0.4日増)、稼働1日当たりの輸送量は27万5000トで前年同月比3.2%増となった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。

国土交通省がこのほど公表した2020年12月のトラック輸送情報によると、特別積み合わせ(調査対象24社)の輸送量は637万6000ト(前年同月比5.0%増)となり、これで3カ月連続のプラスとなったが、一般トラック事業者による輸送量は同0.4%減となり、これで消費増税となった19年10月以降15カ月連続のマイナスとなった。



福山主管支店で行われた出発式(5日)